

(お知らせ)

停止中の柏崎刈羽原子力発電所7号機における
主排気筒からの放射性物質の測定結果について

平成19年7月20日
東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

7月16日の地震に伴い自動停止した当所7号機における主排気筒からのヨウ素等の検出につきましては、[7月17日にお知らせ](#)しておりますが、本事象に鑑み、7号機の主排気筒における放射性ヨウ素および粒子状放射性物質の測定を、1週間に1回の測定から測定頻度を増やして毎日測定することとし、7月18日より開始いたしました。

その結果、主排気筒における7月18日分の測定では、ヨウ素131およびヨウ素133が検出されましたが、7月19日分の測定では放射性物質は検出されませんでした。

なお、7号機の主排気筒からの放射性物質放出で受ける被ばく線量は、これまでの合計で、放射性ヨウ素が約 2×10^{-7} ミリシーベルト、粒子状放射性物質が約 7×10^{-10} ミリシーベルトとなりますが、一般公衆の線量限度1ミリシーベルトの1千万分の2であり、自然界から1年間に受ける被ばく線量2.4ミリシーベルトと比較しても十分低い値となっています。

今後も当面の間、主排気筒のヨウ素および粒子状放射性物質について、毎日測定してまいります。

以上